
けいおん ~もう一人の幼なじみ~

タカメン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

けいおん ～もう一人の幼なじみ～

【Nコード】

N7791Z

【作者名】

タカメン

【あらすじ】

澪には幼なじみがもう一人いた！？

けいおんの二次創作です

初心者なので読みにくいですが頑張って行くのでよろしく願います

いろいろアドバイスを下さるとありがたいです

初めてなのでいろいろな先生の作品を参考にしています

とても更新は遅いです

基本設定(前書き)

一応作ってみました

基本設定

基本設定です

主人公

光明嵐

身長175cm 体重60kg

漣と律とは小学校からの幼なじみ主人公は漣に一目惚れしていて律はそのことを知っているそしてたまにアドバイスをもらっている律とは昔からの友達といった感じ

頭はそれなりよく数学と理科は漣よりいいが他は負けている

パートはベース

顔は少しほっそりしている

髪は基本黒だが少し茶色がかっている

顔のレベルは中の中ぐらい体格は細いが筋肉がある

走るのは速く器械体操や水泳はよく出来るが球技は全然ダメである
趣味は読書と音楽を聴くこととダラダラすること

基本設定（後書き）

これからどんどん足されて行くと思います
感想 アドバイスよろしくお願いします

第1音 入学式（前書き）

本編に入りました

アニメでやる少し前までです

第1音 入学式

暖かい春の日にゆっくり歩き男がいた

俺 光明 嵐である

この春より共学校になった桜ヶ丘高校に入学した高校1年生だ

「おゝい、嵐」

「律、待ってくれよ」 急に走り出すなよ 「あつ嵐！」

向こうから走ってくる広いおでこがトレードマークの女子は幼なじみの 田井中 律だ

その少し後ろを走ってる背が高く黒髪の少し大人っぽい女子はこれまた幼なじみの 秋山 漣だ

「おゝ漣、オハヨ」

「なんで漣だけなんだよ」

「おはよう嵐、いや、一人で心細かったんだ」

「って、漣まで！？ てゆーかさつきまで一緒に歩いてただろ」

そんな感じで律をからかっていたら校門前に着いた

「よーし着いた〜……どこに行けばいいんだっけ？」

「そんなぐらい覚えておけよ……あそこの昇降口にきまつてんだろ」

そして昇降口に着いた俺達はそれぞれのクラスを探した

光明だから、こ、こ、……… 1組みたいだ。 漣達は？

「私は…… 2組だな！ 漣は？」

「私も2組みたいだ」

マジかよ……

「嵐は？」

「…… 1組……」

「じゃあ嵐だけ違うのか〜」

そして1組の前に着くと

「じゃあここでお別れだな じゃあまたあとで」

すると律がいきなり寄ってきて

「愛しの漣ちゃんと別れて残念だなあ 嵐？」

と小声で言ってきたやがったので デコピンをくらわせてやった

「いったいなー何すんだよ〜」

「どーせまた律が変なこと言ったんだろ ほら行くぞ じゃあな〜嵐」と言っ て 行っ てしまっ たそしてそのあと入学式がありそれが終わっ たあと自己紹介等をして今日の授業（？）は終わっ た

そして最後に担任が

「クラブ見学は自由だ 今日行かなくても明日新入生歓迎会があるから それには出るよ〜」

と言っ ていた

多分漣は文芸部に入るだろうから入部届けは文芸部と書いておいた多分俺と漣が入っ ていれれば律も入るだろうと思っ ていた

しかし次の日それは甘かっ たことに気づいた

第1音 入学式（後書き）

皆さんのご意見やアドバイス、リクエストには出来るだけ答えて行きたいのでよろしくお願いします

第2音 廃部（前書き）

やっとアニメ本編に入りました

唯は次回には登場できる予定です

第2音 廃部

次の日

俺はかつたるい新入生歓迎会に強制的に行かされた

感想はあまりないがあの中でやっぱり溲が入るとしたら文芸部だろう
先輩優しそうだったし

あと元女子高だけあって運動部が少ない
だから今年出来た部活もいくつかあるみたいだ

それに今年新入生が入らなかつたら廃部なんていう部活もあるみたいだ

まあそんなことはほつといて早く入部届けを出しに行くとしよう
すると職員室で聞いたことのあるアホみたいな声が聞こえてきた

「けいおん部って廃部になっちゃったんですか？」

「ええ、正確に言うと廃部寸前ね今月中に4人入らないと廃部になっちゃうの
去年は3年生がいたんだけど……」

どうやら律がさっき新歓で言ってた部活に入ろうとしていたようだ

「律何やってんだよ〜さっきの新歓の話し聞いてたのかよ？って漣はなんでここにいるの？」

「ああ、嵐聞いてくれよ律のやつ私が文芸部入部届け書いたらそれを破いたんだ」

俺は一瞬怒りが湧いたが漣の　しょうがないな　って顔を見ると不思議と怒りがおさまった

「でももう廃部したんだっいたらいいだろ　ほら、律いつまで立つてるんだよ早く行「もしかしてこれはチャンス？」…はああ！？」

「今入部したら私が部長…悪くない…」

「律、何言ってるんだよ〜？」

「よーしそうと決まったらさっそくあと一人入部希望者を集めるぞ」

「はあ！？いきなり何言いだすんだよ？だいたい4人必要だからあと3人だろ？」

「？」

いやそんな 何言っただコイツ？ みたいな目で見られても…

……

「嵐…もう現実から目を背けるのばやめよう 律がこう言い出したら止まらないだろ」

律のアホめ……

そして俺達は音楽室で入部希望者を待っていた
……来るのかなあ？

ガチャ

「あのー入部希望なんですけど」

そこにはいかにもお嬢様っぽい金髪の女子が立っていた

「けいおん部に!？」

「いえ、合唱部…」けいおん部にしてください」「はい？」

「おい律強引に誘うなよ」

「そつだぞ、 やっぱり私も他の部活に行くよ」

「えー、漣ー嵐ーやろうよ 約束しただろ」「してない」「でも」

漣が行くならそろそろ俺も……

「楽しそうな部活ですね私キーボードぐらいしか出来ませんがど入部しても良いですか？」

もちろん承諾していまここに新しく誕生した

第3音 入部（前書き）

唯が入部します

作者がけいおんを熟知してる訳じゃないのでアニメとはいくつか違うところがあったり抜けてる部分がありますが大目に見てください

第3音 入部

けいおん部が出来て数日後俺達はさっそく練習をするのかと思いきやなぜか部室で紅茶を飲んでいた……

「おかわりいかがですか？ あとケーキもありますよ」

しかもそれはあの日来た 金髪の子 琴吹 紬 が家からもってきたものだ

スゲーうまい。しかもカップも超高そうなティーカップだし

「こんな高そうなもの良いのか？ ムギ？」

漣はいつの間にか琴吹のことをムギとか呼んでるし
あいつはいったい何者なんだろう？

「良いのよ、家からあまつてるお菓子とか持ってきてるだけだし」

追加

あんな高そうなものが余ってるなんて本当に何者なんだろう？

ガチャ

「おーいけいおん部に新しい部員が入るみたいだぞ〜」
するといきなり律が入って来た

「いきなりどうしたんだよ？」

「聞いてくれ さっき文化部を管理している先生から聞いたんだけどな〜 朝けいおん部に入部届けを出しに来た生徒がいたんだって〜 多分もうすぐで来るはずなんだ」

「ふーん」

「全然嵐は興味なさそうだな」

しかしいつころに入部希望者は現れない

「俺 教室に忘れ物したから行ってくる」

「なんだよ結局嵐も気になるんじゃないか〜」

アホがなんか言ってきたけど無視！

コッ

「そついつことを言うんじゃない!〜!」

どうやら瀧がデコピンをやってくれたみたいだ

やっぱり凄優しいなあ

「嵐は照れ屋なんだから!」

……聞こえなかったことにしよう……

ドアを出るとすぐそこにドジそうな茶髪の子がいた

さっき言ってた子だと思いをかけてみた

「ねえ、君がもしかして入部希望者?」

少し笑顔で聞いてみた

「ひいひい」

なんで声かけてただけでこんなに怖がられるんだろう?

「あっ、ごめんなさいちょっとちがうこと考えて」

「君入部希望なんですよ　ひとまず入りなよ」

俺は氣力を絞りその言葉を言った

「入部希望者だぞー……」

「おおおーようこそーってなんでそんな嵐落ち込んでんだよ？」

俺そこまで顔ひどくないと思ってたんだけどなあ　実際はそうなのかなあ？

「まあいいや　ムギお茶の準備だ！」

「あ、あの　えっと、」

俺の落ち込みを10秒で片付けた部長　と何かいいたげな茶髪

何かいいたげな顔してるけどどうしたんだろう？

思った以上にひどかったとかかな？

どちらにしろコイツはせつかくの部員（獲物）なんだから逃がしちやダメだな

「まあとりあえず座りなよ、えっと……？」

「あ、私平沢 唯です」

「よろしく平沢さん。まあとりあえず琴吹さんの紅茶飲んでみてよ

美味しいから」

そういうとゆっくり飲みはじめた
そして幸せそうな顔をする平沢さん

「嵐、いつもと感じ違うかい？」

どつちやら溲たちはまだ気づいてないようだ

「平沢さんなんか手応えが良くない。部費のためにもここは逃したらダメだ」と小声で言った

「平沢さんはなんでこの部に入ろうと思ったの？」

音楽に興味があるなら食いつくはずだ

しかし……

「えっと軽い音楽って書いてあったんで口笛とかかと思ってて」

マジかよ……少なくとも口笛はないと思っぞ

「じゃあどんな楽器なら出来る？」

ナイス律！これはどうだ？

「カ、カスタネットじゃなくてハ、ハーモニカ！」

最初カスタネットって言ったぞ。これは嘘だろ

「ハーモニカならあるから吹いてみ」ごめんなさい吹けません！」

やっぱり……

「あ、あの、今日ここに来たのはここに入るの辞めさせてくださいって言いに来たんです！」

マジかよ……！

最初の表情はそういうことだったのか 多分もう無理だな。

「そんなこと言わずにねえお願いだよ」 平沢さくん 毎日お茶
するだけで良いから」

「おい律もう無理に誘うな悪い印象が付くだろ」

「そつだぞ律 嵐の言つ通りだ」

「でも」

そんなふうに言い争っているところとうとう泣き出してしまった

平沢さんが……………

「こんなに迷惑かけてしまつて本当にどうしたら良いか……………軽い気
持ちで書いてしまつて 本当にごめんなさい」

まるで子供が泣き出すように大粒の涙を流していた

「じゃあ俺達の演奏だけでも聞いて行つてくれ」

「演奏してくれるの!?!」

……………めっちゃ食いついた

そんなこんなで演奏することになった

曲名は「翼を下さい」だ

あの結成した日からそんなに日が経っていなかったが それなりに
うまく出来た

そして平沢さんの様子は……

キラキラキラ

すごい笑顔だった

「どろどろでしたか？」

「あの、うまく言葉に出来ないんですけど あんまりうまくない
ですね……」

今律が心の中で「バツサリだー」と行ったような気がした

「でもすごい感動しました！私この部に入部します！」

そうして新しく平沢さんを加えたけいおん部はやっとスタートラインにたったのであった

第3音 入部（後書き）

やっとアニメ1話が終わりました

これからは1話1話を長く出来るようがんばります

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7791z/>

けいおん ~もう一人の幼なじみ~

2011年12月29日09時53分発行